



博物館だより

No. 210 2012. 10

ミニミニマインズ

鉱業博物館リニューアル1周年！

昨年 10 月 1 日に鉱業博物館がリニューアルオープンしてから、早 1 年が経ちました。

この間、当館では展示に細かな修正を施し、新しい標本を加えて、さらに充実した展示となるよう改善を重ねました。また新設した特別展示室を活用した特別展は、昨年度は 3 回、今年度も現在 3 回目を開催中で、さまざまな角度から博物館の魅力を発信しています。より一層の周知を図るため、テレビでの CM 放送や各情報誌の取材協力も積極的に行っています。その甲斐もあって見学者が大幅に増え、リピーターだけでなく新規の見学者の来館にもつながっています。リニューアル後の 1 年間 (H23.10.1～H24.9.30) の入館者数は 9,473 人で、リニューアル前の同時期に比べ約 4,000 人の増加となりました。

現在、博物館の認知度、来館の動機、展示に対する反響を見るための来館者のアンケートを行っています。アンケートの結果を十二分に検討し、できるだけ多くの要望を反映できるように改善をしていきたいと考えています。

特別展から

現在開催中の特別展「秋田古銭物語～阿仁の鉱山が生んだ貨幣～」には、古銭ファンのみならず、鉱山に思い入れのある方や、ゆかりのある地元の方など多くの方が足を運んでくださいました。

展示をみてコレクションを寄贈してくださった方もいらっしゃいました。



古銭コーナーにて、サイエンスボランティアの解説に聞き入る見学者

リーフレット

来館者に配布する案内リーフレットが完成しました。各フロアごとの館内見取図に沿って、豊富なコレクションの中からぜひ注目してほしい標本や資料をピックアップしています。

時間のない人にも効率的におすすめの展示を見てまわれるように工夫がされています。

デスモシルスの臼齒 (羽後町産)



来館者アンケートから…テレビ CM 放映

朝の天気予報枠で放映されたテレビ CM



を見て、初めて博物館を知り、来館したという方も大勢いらっしゃいました。博物館を知るきっかけとして、友人・知人の紹介に次ぐ 22% を占めました。

CM 放映用に鉱物の撮影



平成24年度 企画展

山本作兵衛氏 炭坑記録画展

～ユネスコ世界記憶遺産に登録された石炭採掘現場の様子と坑夫の生活風景画～

日時 平成 24 年 11 月 6 日 (火)～11 月 25 日 (日)

9:00～16:00

場所 鉱業博物館 2 階特別展示室

市民向け講演会

日時：平成 24 年 11 月 17 日 (土) 14:00～15:30

場所：秋田ビューホテル 5 階

演題：『山本作兵衛さんの生い立ちと

筑豊の炭鉱の画かれた世界』

角銅 立身氏 (秋田鉱山専門学校卒)

『世界記憶遺産と山本作兵衛』

安蘇 龍生氏 (田川市石炭・歴史博物館長)

事前の申し込みはご不要、聴講は無料です。直接会場にお越しください。

今年度企画展は平成 23 年に日本初のユネスコ世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の炭坑の記録画の展示と、山本氏に関する講演会を開催します。

山本作兵衛氏は明治 25 年に福岡県に生まれ、少年時代から約 50 年間、炭鉱の最前線で働き続けました。炭鉱が最も隆盛を極めた時代の炭鉱の実像が、画と画に書き込まれた文章からまっすぐに見るものに迫ってきます。その他にも絵はがきや当館所有の記録画本の展示、テレビ放映された DVD の再生放送なども予定しています。

記念講演は左記の日程で、山本氏と親交のあった角銅氏、世界記憶遺産に登録された原面のほとんどを所有する田川市石炭・歴史博物館長の安蘇氏が行います。

ぜひこの機会に皆さまお誘い合わせのうえ、ご来館ください。

平成 24 年度 企画展

山本作兵衛氏 炭坑記録画展

～ユネスコ世界記憶遺産に登録された石炭採掘現場の様子と坑夫の生活風景画～

『立ち廻り』 『ヤマの大鉄壁』
(山本作兵衛氏炭坑記録画より)

平成 24 年 11 月 6 日 (火)～11 月 25 日 (日)

会場：鉱業博物館 2 階 特別展示室

市民向け講演会 (無料)

主催：【山本作兵衛氏の生い立ちと築豊の炭鉱の画かれた世界】
角銅 立身氏 角銅 龍生氏 安蘇 龍生氏
協賛：【世界記憶遺産と山本作兵衛】
秋田県立歴史博物館 秋田県立博物館 秋田県立美術館
協賛：【世界記憶遺産と山本作兵衛】
秋田県立歴史博物館 秋田県立博物館 秋田県立美術館

日時：11 月 17 日 (土) 14:00～15:30
会場：秋田ビューホテル 5 階

秋田大学大学院工学資源学研究科
附属鉱業博物館

企画展ポスター

新着標本

エベレスト山頂の石 中央ホールにて展示中



エベレスト山頂の石：石灰岩

左写真のエベレスト山頂の石は、北日本海外登山研究会代表、日本ヒマラヤ協会会員の保坂 昭憲氏より寄贈されたものです。

高さ 8,848mのエベレストの頂上には、4億6000 万年前の石灰岩が分布しています。この石灰岩からは海生生物の化石が発見されたという報告もあり、世界一高い場所がかつて海だったことを物語っています。地球のロマンが詰まった石を見に来てみませんか？



イエローバンド：石灰質片岩
エベレスト山頂部の石灰岩からなるチョモランマ層のすぐ下に分布する地層。黄色の縞模様をしている



無料開放します

11/3(土)

11月3日の文化の日は文部科学省の呼びかけによる「教育・文化週間」(11/1~7)に伴い、博物館を無料開放します。

10月20・21日のオープンキャンパス、大学祭の無料開放には、115名の方にお越しいただき楽しんでいただくことができました。

中学生の職場体験・訪問取材

当館では近隣の中学校からの要請で中学生の職場体験や訪問取材の受け入れを実施しています。今月は飯島中学校、土崎中学校の生徒が訪れました。

職場体験では男子生徒4人が千田恵吾学芸員の指導のもと、丸1日博物館の仕事にチャレンジしました。実務的な知識を学び、体を動かして現場で作業しました。2千点以上の展示品の管理など「多くの苦労がある学芸員の仕事を間近で体験できた」とお礼状が届きました。

また訪問取材では「価値の高い鉱物は何か？」など質問しながら解説に耳を傾けていました。特に興味があるという鉱物コーナーでは食い入るように標本に見入っていました。

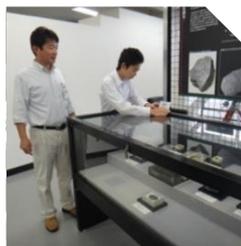
職場体験の一日



まずは仕事を全体を把握。1年間のイベントの多さに驚き



イベントで使用する化石レプリカの着色作業



展示ラベルを作成し、見学者が見やすいように配置



ホームページの更新作業



新着標本の設置のため大型展示台を移動

標本の紹介 顔料になる鉱物

芸術の秋です。彩り鮮やかな秋です。さまざまな鉱物が古来より色を出す顔料として用いられてきました。当館の展示標本の中から紹介します。



孔雀石(マラカイト)

緑青という名で岩絵の具として使われる。紀元前15世紀のエジプトの壁画にも使われている。和名は縞模様が孔雀の羽の模様似ていることから付けられた。日本の産地として協和町の荒川鉱山が著名



藍銅鉱(アズライト)

紺青や群青などの岩絵の具ができる。孔雀石とともに銅の鉱床の上部に産出し、日本では小坂鉱山でも産出した



左図の尾形光琳(江戸時代)の日本画『燕子花図屏風』(かきつばたすびょうぶ)には葉に緑青(孔雀石)、花に群青(藍銅鉱)が使われたと考えられている



青金石(ラピスラズリ)

顔料名はウルトラマリン。昔はアフガニスタンからしか取れない貴重な石で、地中海を渡ってヨーロッパに渡ったことからウルトラマリン(「海をこえた」の意味)と呼ばれた。フェルメールの有名な絵画『真珠の耳かざりの少女』のターバンの青もこの色



辰砂(シナバー)

粉末は朱色の顔料として利用されてきた。紀元前のローマで使われた記録もある。『高松塚古墳』に残る赤も辰砂ではないかといわれている



雲母(マイカ)

無色透明。絵の具の上から白雲母の粉を塗る雲母刷り(きらすり)という浮世絵の技法で、写楽などが用いた。結晶が薄く剥がれ、透明である特徴を生かしたもの。雲母がキラキラ乱反射して真珠のような光沢が現れる